

生徒アンケート分析

- 1 実施時期 7月15日（金）
- 2 実施人数 99名（全校生徒102名）
- 3 各項目別考察

(1) 学校生活全般について＜項目1～3＞

「目標を持って学校生活を送っている生徒」は9割近くいるが、3年生の割合が低くなっている。「中学校生活は楽しく充実している」「松柏中学校が好きである」という二つのアンケートも同様の結果となっている。一方で、学校行事や生徒会活動に積極的に参加している生徒は3年生の方が多くなっている。1学期は八西総体、定期テスト等があった、3年生はかなりプレッシャーを感じながら学校生活を送っていたのではないかと考えられる。

(2) 行事等について＜項目4～6＞

「進んで地域活動や行事に参加している」というアンケート項目は、肯定率が低くなっている。新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんどの地域行事が中止や延期を余儀なくされており、生徒の地域に対する意識も薄れてきていることが気掛かりである。

一方で、7月に実施した資源ごみ回収では、地域の方々がたくさん協力してくださっており、地域に支えられているという実感を持つことができた。

(3) 学習面について＜項目7～9＞

「学校は丁寧に、分かりやすい授業をしている」については、どの学年も高い評価をしている。しかし、「授業内容の理解」や「学習習慣の定着」については、学年が上がるに従って、評価が低くなっている。3年生の学習習慣を定着させ、授業内容の理解を進めることが急務であると考えます。そのために、教職員の研修を深めていきたい。

(4) 生活面について＜項目10～13＞

「きまりを守り、規則正しい生活を送ろうと心掛けている」生徒が9割以上を占めており、全体的に落ち着いた学校生活を送っているといえる。挨拶の状態もよくできていると思う。「思いやりや優しさの気持ちを持って生活している」という問いに対して、肯定率が100%となっていることがすばらしいと思う。これからも学校生活における言葉遣いやICT機器の利用の仕方について注視しながら、指導に当たりたい。

(5) 人権面について＜項目14・15＞

「命の大切さ」や「人権意識の高揚」については高い肯定率であるが、「学校は、いじめや仲間外しが起きないように取り組んでいる」という問いに対して、「あまり思わない」と答えた生徒が2・3年生に若干名いることを念頭に置き、2学期の人権週間を中心に生徒の心に訴える授業や話を行い、いじめや仲間外しをつくらぬ学校を目指していきたい。

(6) その他について＜項目16～20＞

「学校は、連絡・相談したことについて適切に対応してくれる。」という問いに対して1割の生徒が否定的な意見を持っている。生徒の声に十分に耳を傾けることができていないという反省の基、2学期以降は生徒の話にこれまで以上に耳を傾ける教職員集団になるよう努めていきたい。